

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★四季を感じるユニット行事の取り組み:春(お花見)、夏(夏祭り)、秋(敬老会)、冬(クリスマス会) ★地域との交流:近隣の中学生・高校生受け入れ(小松タイム、職場体験)、ボランティア受け入れ(2ヶ月に1回は定期的な慰問)、資格習得のための実習受け入れ、老人会の慰問、青年団の慰問 ★毎月1回、職員勉強会、日常生活報告書の送付と毎月末の金曜日に家族会(茶話会)の実施 ★毎月1回、外食又は食事会を各ユニット単位で実施 ★お誕生日の日に、個別のお誕生日会を開催(ユニットの皆で祝う) ★ユニット内及び施設内で過ごす事が難しく外に出たい希望の方に、毎日ドライブや散歩の付き添い ★利用者のリクエストにより毎月15日はおはぎ作り ★2ヶ月に1度、広報誌発行 ★天気が良い時は中庭で外気浴、天候不良時は屋内で会話をしながら歩行練習

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の系列法人には医療法人や社会福祉法人があり、西条市を中心に医療や福祉などのサービスを通して、誰もが地元で生き活きと生活ができ、笑顔あふれる地域社会づくりを目指し活躍の場を広げている。昨年管理者が交代し、事業所は新たなスタートを切った。職員の介護経験は様々であるが、管理者は「基本介護技術の手順書」の作成など独自にマニュアルを整備しながら職員のスキルやレベルの向上に奮起している。利用者の重度化に伴って、協力医と連携を密にすることや看護師を配置することにより、利用者が安心して暮らし続けられるよう努めている。また、利用者一人ひとりの「こだわり」を大切にした支援に取り組んでおり、温かみを感じる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します										
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が							
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)

氏 名 伊藤 元栄 (大森 晋也)

評価完了日 平成 27 年 2 月 2 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は事務所の目につきやすい所に掲示されている他、玄関 や名札の裏にも記載されている。理念を元に小松の里の心が け「あたたかく、さりげなく、気配り目配り」をいつも念頭 に置きケアに取り組んでいる。心がけは申し送りで復唱し て、普段の業務でも意識して取り組んでいる。 (外部評価) 法人理念のほか、「あたたかく、さりげなく、気くばり目く ばり」という事業所独自の「心がけ」を開設時に作成し大切 に受け継いでいる。事業所内の各所に理念と「心がけ」を掲 示しているほか、名札の裏に携帯し職員は始業時に唱和し 日々意識付けしている。管理者は「心がけ」を常に意識する ことで、職員が同じ方向を向いて実践に繋げられるよう指導 しており、業務の中で気がついたことはその都度職員に声か けをしている。また、職員は理念や「心がけ」を元にして個 人目標を作成し、年2回個別面接で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 近隣の中学校へ運動会など訪問して、学生もボランティアで ホームへ来てくれる。地域のお祭り見学や、だんじりが来て くれている。老人会の方の訪問もある。近所を散歩しなが ら、挨拶を行い日常的に交流を行なっている。ホームで開催 するお祭りなど、案内状を送付して、地域の青年団へ協力要 請も行なっている。 (外部評価) 事業所は地区と地区の境目に位置し、日常的に近隣とのつき あいが難しく協力者が得られにくい、地域住民と話し合い の機会を作り、つながりを持つ努力を重ねている。職員の縁 から地域の青年団に祭りのバザーの協力が得られるように なった。職場体験から始まった中学生との交流は、草引きや 清掃活動、レクリエーション活動などの定期的な支援にとど まらず、中学校の文化祭へ見学に行くなど相互の交流が広 がっている。また、幼稚園児を招待して事業所で作った野菜 などを利用者と一緒に収穫するなど、事業所としてできる工 夫を継続させながら地域との交流が深まるよう努力してい る。	事業所のある場所や地域性など事業所だけでは解決し にくい問題もあるが、今後も事業所の特徴を活かした 地域貢献など地道な活動を継続させていくことを期待 したい。職員間で話し合いながら、活動を継続するこ とにより地域住民への周知が広まり、事業所と地域を 結ぶ支援協力者を得やすくなり、利用者と地域のつな がり深まったり、災害発生時の相互の協力体制がで きていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で地域の方へ認知症の理解や支援の方法など、 ホーム内での出来事や、研修等で学んだ事を説明して伝えて いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組みや、状況報告等を行い、その場で出た意見 はサービス向上に活かせるように勤めている。概ね2ヶ月に 1回、開催している。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、地域包 括支援センター職員、介護相談員等の参加を得て2か月毎に 開催している。会議では活動報告や地域の情報交換をしてい るほか、避難訓練やAED使用方法など行事を併せて実施 し、家族が参加しやすいよう工夫している。素直な意見が出 され、真摯な姿勢で回答をしている。分かりやすい議事録を 作成し参加していない職員に回覧しており、出された意見が 運営に活かされるよう情報を共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月ホームの入所状況や待機者情報を市役所の担当者へ報告 している。個別に地域密着型サービスについて疑問に感じる 時は、電話で市役所へ問い合わせしている。月に1回は介護相 談員の訪問で利用者との関わりを持って頂いている。運営推 進会議へは、地域包括支援センター職員が参加してくれて意 見交換をしている。	
			(外部評価) 管理者は市担当者と良好な関係にあり、事業所の実情を伝 え、分からないことは積極的に相談し助言をもらっている。 地域包括支援センター職員は運営推進会議への参加があり、 意見交換ができています。また、毎月介護相談員の訪問があ り、利用者との顔馴染みの関係ができており、面談内容は書 面で報告がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関等への施錠は行わず出入り自由になっていて、玄 関へはセンサーによるチャイムで対応している。夜間は防犯 のため施錠している。玄関から出て行かれる利用者へは、引 き止めること無く付き添い散歩している。その他の身体拘束 は行わないよう常に意識して取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所には身体拘束をしない方針があり、勉強会や外部研修 に参加し内容を職員に伝達するなど、共通の理解を深めてい る。管理者は声かけや対応には経験による職員の差があると 感じており、気になる場合にはその都度利用者を尊重した対 応を正しく理解できるよう話し合いの場を設けて指導してい る。日中玄関は施錠せず、センサーを活用して職員は見守り で対応している。ユニットの扉には鈴を使用しているが、利 用者はユニット間や中庭へ自由に行き来することができる。 また、帰宅願望のある利用者と一緒にドライブに出かけ、気 分転換を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会で高齢者虐待防止法等について考え、虐待が見過ごされる事がないように注意している。管理者や副主任、ユニットリーダーで気付きを確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在の利用者で成年後見制度を利用している方はいないが、家族からの相談や利用者の生活場面で、必要と感じる時は、社会福祉協議会や地域包括支援センターへ相談したり、窓口を家族へ紹介したりしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は管理者が行い、十分な説明を行なっている。改定等がある時は、文章で報告したり、重要事項説明書を変更したり、理解納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関入ってすぐの所に意見箱を設置している。月に1回の家族会や面会時に意見を聞いて、運営に反映させている。ケアプラン更新時には、来ることが出来ない家族へ電話で意見や要望を聞いている。	
			(外部評価) 家族とこまめに連絡を取り、日頃の利用者の様子を伝え、意見を聞いている。定期的に広報誌も発行し、写真を入れ利用者の生活ぶりを分かりやすいよう伝えている。家族は運営推進会議のほか、家族会として茶話会を毎月開催しており、少しずつではあるが参加家族が増えてきており、直接意見や要望が聞ける機会にも繋がっている。家族から出された要望は職員間で話し合い、原因を追究して繰り返さないよう対策を早期に検討し運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回は職員と面接して意見や提案を聞く機会を設けている。ユニット単位では、ユニット会へ参加して話に参加している。職員の働きやすい環境や利用者のサービス向上に繋がることは、毎月法人内の管理職会議で提案している。 (外部評価) 職員は毎年個人目標を作成している。年2回管理者は職員と個人面談をしており、目標達成を確認するほか意見を聞き、お互いに思いを共有している。法人では各種研修の実施や資格取得への支援をしているほか、法人内異動の希望を取り入れたり、育児休暇を取りやすいよう支援するなど、職員が長く愛着を持って働きやすい環境の整備に努めている。職員の人事異動が重なり事業所は不安定な時期もあったが、管理者は職員が精神的に落ち着いて働けるよう様子を観察し、必要に応じて声をかけて話し合いをしている。管理者は介護をより深く知ってもらいたいと独自の「基本介護技術の手順書」を作成し、経験の浅い職員への人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に2回は、個人個人が取り組む目標を設定して、向上心を持って取り組んでいる。資格習得に向けた取り組みもあり、合格した時には手当が支給される。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内で管理職、リーダー対象の研修があり、接遇研修や若手職員研修がある。ホーム内では、キャリア段位制度を利用して、基本介護のマニュアルを作成し、ユニット単位でOJTの取り組みを開始している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者やケアマネ資格者は、西条市のケアマネ連絡会へ参加して交流できている。同じ法人内のグループホームとの交流や、近隣のサ高住とのネットワーク作りを行なっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) インテークでは、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容をユニット内職員へ提示している。入所して1ヶ月程度は、暫定プランを作成して、安心を確保する関係づくりを行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) インテークでは、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容をユニット内職員へ提示している。入所して1ヶ月程度は、暫定プランを作成して、安心を確保する関係づくりを行なっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) インテークで、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容を参考に、「その時」まず必要な支援を見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る方には職員と一緒に台所仕事を行ってもらったり、色々なアドバイスを聞いて、教えてもらいながら協力してもらい、暮らしを共にする者同士の関係を意識している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族がホームを訪れた時には近況報告を行ったり、毎月必ずその月の様子を伝える報告書を送付している。利用者より悩みがある時は、家族の面会時や電話などで相談して、職員と家族で協力しながら支えるように考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔馴染みの場所へ出かけたり、友人や知人の面会時には、お部屋で話してもらい、快い挨拶を心がけ、いつでも訪問しやすい雰囲気作りを行なっている。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から生活歴などを聞き、聞き取りシートにまとめ職員間で共有している。利用者が大切にしてきたことを大切に考え、外出行事の際には利用者の生家近くなど思い出深い場所に行けるよう支援している。3ユニットあるが利用者同士の交流が日常的に行われており、新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係を把握したうえで、リビングで座る位置を考えている。利用者同士が誘い合い、和やかな雰囲気となっている。難聴の方のいるので、職員が仲介役となり、孤立しないように支えている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院や死亡で契約終了となった時は、フォローに繋がらないことが多い。他施設へ入所で契約終了時は、施設へ訪問する機会に面会している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1対1になれる時間を作り、思いや意向を確認している。困難な場合は、ユニット内で話し合い、本人にとってよりよい暮らしが出来るよう検討している。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者一人ひとりのこだわりを大切にした支援に取り組んでおり、聞き取りをした思いなどは「こだわりシート」に記録し、職員間で情報を共有している。思いを把握することが困難な利用者には家族から情報を聞いて職員間で話し合い、利用者が納得できる支援に努めている。職員は時間に追われ業務優先となってしまう現状だが、「もっと利用者に関わる時間を増やし、気持ちに寄り添いたい」という思いが感じられた。	利用者の思いを「こだわり」という視点で把握する手法はユニークで、利用者や家族は「職員に大切にしてもらえている」と感じることができる。把握した内容は利用者にとって貴重な情報であり、新たな情報の更新をして職員間で話し合い、利用者のことをより把握した寄り添えるサービスが提供できることを期待したい。また、より良いサービスが提供できるよう余裕の持てる人員確保を検討することを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) インテークで家族や本人より生活歴や馴染みの暮らし方を聞いている。可能な方はドライブで自宅見学している。普段の生活での会話や家族からの情報により、新しい発見がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できること、出来ないことの把握を行い、できる事を安全に毎日している事へ変われるように支援している。自分で行いたい意欲を引き出せるよう盛り上げている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月茶話会を開き、家族より意見や要望を聞きながら、検討している。家族が参加できない場合も多いので、計画見直しの時期に電話で意向を確認して反映している。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員が利用者や家族等から意見を聞き、毎月のユニット会で話し合い、介護支援専門員を中心として介護計画を作成している。ユニット会では定期的にモニタリングの話し合いもしており、必要に応じて計画の見直しをしている。生活課題の取組み状況は介護記録のほか、実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングに繋げることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録やオンリーワンメモを通じて日々の生活状況は把握出来ている。介護計画に関しての記録も毎日行なっていて、見直しの時によく分かるように記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況の変化やニーズに対して、出来る範囲でユニット内で検討し、家族の了解を得ながら、柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生のボランティアや歌謡ショーの慰問、近所の理美容室の訪問等の力を借りて、楽しみながら生活している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科は月1回の往診が主となっているが、専門性がある病院 や本人及び家族の希望があれば、市内であれば受診介助と院 内付き添い、家族への報告を行なっている。市外県外を希望 する場合は、家族と相談して、主治医と希望する病院との医 者の橋渡しを行なっている。	
			(外部評価) 系列の医療機関など協力医との連携が取れており、希望して 協力医をかかりつけ医としている利用者が多い。利用者や家 族の希望するかかりつけ医を継続して受診することもでき る。受診は家族の協力をお願いしているが、同行できない場 合は管理者や看護師が同行することも多く、適切な医療が受 けられるよう支援している。常勤ではないが看護師の配置が あり、利用者の健康への不安軽減に繋がると共に、病院や家 族との連携がスムーズに図れるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師に気がついた事を伝えて相談している。必要に応じて 病院へ受診できるようにしている。個別に看護師が利用者 に聞き取りを行い、不安が強くない支援をしている。受診 の必要があると判断する時は、状況を家族へ説明して同意を 得ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院後は病院の地域医療連携室やMSWと連携を図り、安心し た治療や、早期に退院できるように努めている。西条市のケ アマネ連絡会や社会福祉士会など参加して、病院関係者との 関係づくりをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは実施できていない。重度化した場合や終末 期のあり方について、その状態になる前段階では、入院され る事が多い。	
			(外部評価) 事業所では現在看取り介護の実施はしていない。利用開始時 に事業所として対応できる内容を利用者や家族に説明し、利 用者の状態に応じて、その都度利用者や家族から意向を聞 き、希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。系 列法人には医療機関や特別養護老人ホーム等があり、転院な ど受け入れ先の相談にも応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回は消防署の方に来てもらい、心肺蘇生やAEDの使用について学んでいる。いざとなった時に適切に実施できるか不安がある。AEDは設置できていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防避難訓練を実施している。地域への参加を呼びかけるが、参加者は少ないため、協力体制は市役所や消防団が中心となっている。年に1回は水害の避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。運営推進会議に合わせて家族等に参加してもらい訓練を実施しており、訓練後には振り返りの機会を設けている。事業所の1階部分には避難経路が多数あり、中庭への出入り口には車いすでも出られるよう新たにスロープを付けている。2階には食糧や飲料水などの備蓄品を用意しているほか、災害発生時には広いベランダを一時避難場所として活用することを検討している。定期的に事業所には地域の消防団の見回りがあるほか、地域の理髪店や美容室に災害発生時の協力を呼びかけている。	事業所の裏は土砂災害の可能性があるため、市役所に防護壁などの対策を依頼し、未然に防ぐ方法を検討している。訓練を重ねたり振り返りを行うことで職員の危機意識は高まってきているが、夜間など緊急時の対応に不安があるため、規定されている訓練のほか自主的な防災へ取り組みを継続させることを期待したい。また、地域住民との協力体制を構築したり、緊急連絡網を活用して確実に伝達できる訓練をする取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応は優しく出来ている。同じ事を何度も聞きに来られても、初めと同じように聞いて否定しないようにしている。しかし、難聴の方など、必要以上に大きな言葉かけとなってしまう事がある。 (外部評価) 管理者は事業所の「心がけ」を大切にして、「利用者一人ひとりの人格や状態に合わせた優しさのある声かけをしてほしい」と職員に指導している。利用者に威圧感を与えるような言葉が聞かれる場合には、その都度注意している。指示をされることを嫌う利用者があり、入浴時などの声かけには気を配っている。法人では接遇力アップへの取り組みをしており、管理者はマニュアルの整備を検討している。居室の表札や広報誌に使用する写真など、個人情報は希望や同意を得て適切に取り扱いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者から相談を受けた時は、話の腰をおらないように気をつけて、利用者のペースや間に合わせて聞くようにしている。自分の考えを押し付けたり、途中で口を挟んだりしないようにしている。まずはどうしたいのか聞いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望するペースに合わせて、草引きを一緒にしたり、外を歩きたい時は、一緒に満足するまで歩いたり、朝が苦手な方は、無理に起こさない対応など、その人が望んでいる事に合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) パーマを希望する方は、近隣のパーマ屋まで案内している。外出時は着る服や持ち物を相談して決めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、芋の皮むき、もやしの根取りから、配膳の準備、食器洗いなど、できる事や好んでいる内容を職員と一緒に分担している。同じテーブルで同じ食事を一緒に食べている。 (外部評価) 事業所に1歩入れば食欲を誘うような香りがして温かく感じられ、利用者の暮らしには良い刺激となっている。利用者の希望を取り入れ、ユニット毎に違う献立を立て、中庭で採れた旬の野菜を使用して職員が調理している。食事は利用者が使い慣れた食器を使用し、利用者と職員が同じ食卓を囲み、会話をしながら同じものを食べている。苦手なメニューで食がすすまない利用者には強要せず、さりげなく季節を感じさせる声かけで和やかな雰囲気となっている。また、利用者の好物から始まった「おはぎの日」のほか、月1回利用者の希望する好きなものを楽しめる「ごちそうの日」を設け、ラーメン店や回転寿司などに出かけたり出前を取ることもあり、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を毎日記録している。1日を通して水分量が少ない時は、甘い飲み物等、利用者の好きな物を飲んでもらったり、数回に分けて水分摂取ができるように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけ及び介助を行い口腔ケアを実施している。声かけのみで出来る方は自室の洗面台で行なっている。介助が必要な方には、出来ないことのみ手伝っており、汚れや口臭は生じていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入して、利用者の排泄リズムを把握しながら、失敗しないように支援している。可能な限り、日中はトイレで排泄ができるように支援している。 (外部評価) 記録をして排泄パターンを掴み、排泄リズムに応じて声かけやトイレ誘導をしている。夜間にオムツを使用する利用者もいるが、日中にはリハビリパンツを使用しトイレでの排泄ができるよう努めている。利用者の身体機能の維持に努め、できることは利用者自身にしてもらうケアに努めている。ポータブルトイレを活用する利用者もいるが、センナ茶やヨーグルトなどを取り入れトイレで自然な排泄を大切にしている。また、トイレの手すりの取り付けや跳ね上げ式バーなどの設置を検討するなど環境整備にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘ぎみの方には、センナ茶を飲用してもらっている。腹部マッサージや軽い運動をしてもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのタイミングや希望に合わせて、入浴したい時に応じた入浴を行なっている。個浴での対応をしている。 (外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週3回午後から入浴をすることができる。利用者の希望に沿えるよう毎日入浴できる準備をしている。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく、入浴日を変更したり誘い方を工夫したりして柔軟に対応している。状態に応じて2人体制で介助したり、足湯をしながらかけ湯をしたりしているが、身体状況の低下により湯船に浸かることができなくなっていることを利用者や家族に説明している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠たくなるまでリビングでTVを観たり話をしたり、穏やかに過ごしてもらっている。遅い時間に入眠した方や、夜間に何度も目が覚めて眠れなかった方は、朝はゆっくりと休んでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋をファイルして、すぐに確認できるようにしている。誤薬がないように一人一人の配薬BOXがあり、BOXから薬を取り出す時、利用者が内服する前、内服後、名前と内服薬袋を確認している。利用者が薬を口に入れて内服するまで側を離れず見守っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、芋の皮むき、もやしの根取りから、食器洗浄、カラオケ、裁縫、洗濯たたみ、豆つまみ、風船バレー、散歩、ドライブなど、気分転換の支援を個別に行なっている。毎月15日は、利用者リクエストで、おはぎを作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月、家族と一緒に御参りに連れて行ってもらっている。自宅へ帰りた方は、職員が付き添い家まで歩いている。歩行が不安定な方も、車いす専用の車で、神社やお寺など、希望する場所へドライブに出かけている。 (外部評価) 利用者の希望で事業所周辺を散歩している。広い中庭にはウッドデッキやベンチが整備され、利用者はいつでも外気浴を楽しむことができる。利用者の生まれた土地や思い出の場所へは一度は出かけられるよう支援しており、利用者を深く知ることにも繋がっている。外出計画を立て今治城や黒瀬ダムなど遠方や、季節に応じて初詣や花見などにも家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。職員が買い物など用事がある場合には利用者数人を誘って気軽に外出したり、ユニット毎に外食に出かけたりすることもあり、外出できる機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は、スーパーやコンビニへ付き添いして、支払い時の見守りを行なっている。自己管理できない方は、家族の希望に応じて施設で立替、嗜好品を買えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持ち込み可能としている。希望があれば事務所の電話や、コードレス電話を使用して、個室内で電話ができるように支援している。手紙の希望があれば、便箋を準備して、郵便局に職員が出してきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 定期的な換気や必要に応じて加湿器を使用している。日に3回は室温チェックをしている。光はカーテンにより調整し、毎月手作りカレンダーを作成したり、季節の装飾品により季節感を味わってもらっている。 (外部評価) 事業所の建物は築10年以上経過しているが、職員が丁寧に隅々まで清掃を行い、清潔が保たれ管理している様子を伺うことができる。季節柄、手指の消毒やマスクの着用を外部からの訪問者にはお願いし、感染予防の対策をしている。共用スペースには利用者の通行の妨げになるようなものは置かない配慮をしている。室内の換気を定期的に行ったり、空気清浄器や加湿器を使用したりするなど、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。また、利用者の趣味の俳句や書、毎月の貼り絵などが飾られているが、ユニット毎で違う雰囲気となっている。リビングにある広い畳スペースで利用者は洗濯物を畳んだり、横になり身体を休めたりしている。事業所の各所にはソファやいすが置かれ、気軽に利用者が一息つける工夫を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ロビー、玄関、リビングにソファを置いて、ユニット内以外でも、屋内で思い思いに過ごせるようにしている。中庭やウッドデッキにもベンチを設置していて、日光浴を楽しんでいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用していたタンスや家族の写真、仏壇を持ち込んでもらっている。個室に持ち込める範囲で、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。 (外部評価) 居室は洗面所、クローゼット、ベッド、エアコンが整備されている。利用者が落ち着いて居心地良く生活することができるよう馴染みや愛着のあるものを持ち込めることを伝え、仏壇や家族写真、テレビ等を配置している。利用者の状態や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。また、トイレなどで職員を呼ぶのに、呼び鈴を鳴らせるよう工夫をしている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレ、浴室には手すりを設置している。自室の前には表札を貼り、自分の部屋とわかるようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★四季を感じるユニット行事の取り組み:春(お花見)、夏(夏祭り)、秋(敬老会)、冬(クリスマス会) ★地域との交流:近隣の中学生・高校生受け入れ(小松タイム、職場体験)、ボランティア受け入れ(2ヶ月に1回は定期的な慰問)、資格習得のための実習受け入れ、老人会の慰問、青年団の慰問、広報誌発行 ★毎月1回、職員勉強会、日常生活報告書の送付と毎月末の金曜日に家族会(茶話会)の実施 ★毎月1回、外食又は食事会を各ユニット単位で実施 ★お誕生日の日に、個別のお誕生日会を開催(ユニットの皆で祝う) ★ご利用者様のリクエストを聞きながら、手作りおやつや旬の食材で食事を提供 ★体調不良時は、家族に報告して、協力病院へ受診介助 ★晴天時は中庭で日光浴
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の系列法人には医療法人や社会福祉法人があり、西条市を中心に医療や福祉などのサービスを通して、誰もが地元で生き活きと生活ができ、笑顔あふれる地域社会づくりを目指し活躍の場を広げている。昨年管理者が交代し、事業所は新たなスタートを切った。職員の介護経験は様々であるが、管理者は「基本介護技術の手順書」の作成など独自にマニュアルを整備しながら職員のスキルやレベルの向上に奮起している。利用者の重度化に伴って、協力医と連携を密にすることや看護師を配置することにより、利用者が安心して暮らし続けられるよう努めている。また、利用者一人ひとりの「こだわり」を大切に支援に取り組んでおり、温かみを感じる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 上通り

記入者(管理者)

氏 名 玉井 嘉奈子 (大森 晋也)

評価完了日 平成 27 年 2 月 2 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえて、施設理念を作成して、玄関や名札の裏に表記して、常に確認できるようになっている。施設理念を元に、心がけ「温かく、さりげなく、気くばりと目くばり」を申し送りで復唱して、日々心がけている。 (外部評価) 法人理念のほか、「あたたかく、さりげなく、気くばり目くばり」という事業所独自の「心がけ」を開設時に作成し大切に受け継いでいる。事業所内の各所に理念と「心がけ」を掲示しているほか、名札の裏に携帯し職員は始業時に唱和し日々意識付けしている。管理者は「心がけ」を常に意識することで、職員が同じ方向を向いて実践に繋げられるよう指導しており、業務の中で気がついたことはその都度職員に声かけをしている。また、職員は理念や「心がけ」を元にして個人目標を作成し、年2回個別面接で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の中学校との交流授業や、運動会の見学、施設で行う夏祭りへの参加案内、ホーム作成の広報誌配布、ホーム周辺を散歩するときに、近所の方と挨拶をするなど、地域の一員として交流している。 (外部評価) 事業所は地区と地区の境目に位置し、日常的に近隣とのつきあいが難しく協力者が得られにくい、地域住民と話し合いの機会を作り、つながりを持つ努力を重ねている。職員の縁から地域の青年団に祭りのバザーの協力が得られるようになった。職場体験から始まった中学生との交流は、草引きや清掃活動、レクリエーション活動などの定期的な支援にとどまらず、中学校の文化祭へ見学に行くなど相互の交流が広がっている。また、幼稚園児を招待して事業所で作った野菜などを利用者と一緒に収穫するなど、事業所としてできる工夫を継続させながら地域との交流が深まるよう努力している。	事業所のある場所や地域性など事業所だけでは解決しにくい問題もあるが、今後も事業所の特徴を活かした地域貢献など地道な活動を継続させていくことを期待したい。職員間で話し合いながら、活動を継続することにより地域住民への周知が広まり、事業所と地域を結ぶ支援協力者を得やすくなり、利用者と地域のつながりが深まったり、災害発生時の相互の協力体制ができていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の時に話をしたり、ホームの行事へ参加する案内を出して、認知症の人の理解や支援方法を見てもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 概ね2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を行っており、取 組み内容や状況を説明している。また、参加メンバーから 意見や要望があるときに、すぐ対応ができる取り組みを行 なっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、地域包 括支援センター職員、介護相談員等の参加を得て2か月毎に 開催している。会議では活動報告や地域の情報交換をしてい るほか、避難訓練やAED使用方法など行事を併せて実施 し、家族が参加しやすいよう工夫している。素直な意見が出 され、真摯な姿勢で回答をしている。分かりやすい議事録を 作成し参加していない職員に回覧しており、出された意見が 運営に活かされるよう情報を共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月、介護相談員の来所があり、利用者及び職員と交流があ る。毎月ホームの入所状況や待機者情報を市役所の担当者へ 報告している。個別に地域密着型サービスについて疑問に感 じる時は、電話で市役所へ問い合わせしている。	
			(外部評価) 管理者は市担当者と良好な関係にあり、事業所の実情を伝 え、分からないことは積極的に相談し助言をもらっている。 地域包括支援センター職員は運営推進会議への参加があり、 意見交換ができています。また、毎月介護相談員の訪問があ り、利用者との顔馴染みの関係ができており、面談内容は書 面で報告がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。研修や日々の話し合いで、安全 に自由に生活できるよう、入口は開放している。玄関は夜間 のみ防犯の目的で、施錠している。	
			(外部評価) 事業所には身体拘束をしない方針があり、勉強会や外部研修 に参加し内容を職員に伝達するなど、共通の理解を深めてい る。管理者は声かけや対応には経験による職員の差があると 感じており、気になる場合にはその都度利用者を尊重した対 応を正しく理解できるよう話し合いの場を設けて指導してい る。日中玄関は施錠せず、センサーを活用して職員は見守り で対応している。ユニットの扉には鈴を使用しているが、利 用者はユニット間や中庭へ自由に行き来することができる。 また、帰宅願望のある利用者と一緒にドライブに出かけ、気 分転換を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会で学ぶ機会がある。利用者の身体に異常がないか、疑わしい対応はないか等、日頃から見過ごす事のないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在の利用者で成年後見制度を利用している方はいないが、家族からの相談や利用者の生活場面で、必要と感じる時は、社会福祉協議会や地域包括支援センターへ相談したり、窓口を家族へ紹介したりしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は管理者が行い、十分な説明を行なっている。改定等がある時は、文章で報告したり、重要事項説明書を変更したり、理解納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ロビーに意見箱を設置している。面会時や介護計画の見直しの時など、利用者や家族の意見を聞く機会を定期的に設けている。介護相談員の来所時や、運営推進会議開催時など、利用者や家族が参加して意見を表せる機会がある。	
			(外部評価) 家族とこまめに連絡を取り、日頃の利用者の様子を伝え、意見を聞いている。定期的に広報誌も発行し、写真を入れ利用者の生活ぶりを分かりやすいよう伝えている。家族は運営推進会議のほか、家族会として茶話会を毎月開催しており、少しずつではあるが参加家族が増えてきており、直接意見や要望が聞ける機会にも繋がっている。家族から出された要望は職員間で話し合い、原因を追究して繰り返さないよう対策を早期に検討し運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回は職員と面接して意見や提案を聞く機会を設けている。ユニット単位では、ユニット会へ参加して話に参加している。職員の働きやすい環境や利用者のサービス向上に繋がることは、毎月法人内の管理職会議で提案している。 (外部評価) 職員は毎年個人目標を作成している。年2回管理者は職員と個人面談をしており、目標達成を確認するほか意見を聞き、お互いに思いを共有している。法人では各種研修の実施や資格取得への支援をしているほか、法人内異動の希望を取り入れたり、育児休暇を取りやすいよう支援するなど、職員が長く愛着を持って働きやすい環境の整備に努めている。職員の人事異動が重なり事業所は不安定な時期もあったが、管理者は職員が精神的に落ち着いて働けるよう様子を観察し、必要に応じて声をかけて話し合いをしている。管理者は介護をより深く知ってもらいたいと独自の「基本介護技術の手順書」を作成し、経験の浅い職員への人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に2回は、個人個人が取り組む目標を設定して、向上心を持って取り組んでいる。資格習得に向けた取り組みもあり、合格した時には手当が支給される。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内で管理職、リーダー対象の研修があり、接遇研修や若手職員研修がある。ホーム内では、キャリア段位制度を利用して、基本介護のマニュアルを作成し、ユニット単位でOJTの取り組みを開始している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者やケアマネ資格者は、西条市のケアマネ連絡会へ参加して交流できている。同じ法人内のグループホームとの交流や、近隣のサ高住とのネットワーク作りを行なっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) インテークでは、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容をユニット内職員へ提示している。入所して1ヶ月程度は、暫定プランを作成して、安心を確保する関係づくりを行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) インテークでは、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容をユニット内職員へ提示している。入所して1ヶ月程度は、暫定プランを作成して、安心を確保する関係づくりを行なっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接時に十分な話し合いを行い、必要としている支援に対応できるように務めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家族の思いで接し尊重したり、喜怒哀楽を共にする者同士を築こうと接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の対応で困ったり悩んだりする時は、家族へ相談して情報を得て、お互いに支えあう支援をしている。面会時や毎月1回は文章で日常の様子を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知人が来られた時は、気持よく挨拶して、訪問しやすい関係を作っている。希望時は個別で買い物へ案内する。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から生活歴などを聞き、聞き取りシートにまとめ職員間で共有している。利用者が大切にしてきたことを大切に考え、外出行事の際には利用者の生家近くなど思い出深い場所に行けるよう支援している。3ユニットあるが利用者同士の交流が日常的に行われており、新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者同士で一緒にテーブルを囲んでもらう。レクリエーションや話題提供を職員が行い、利用者同士が関わりあえるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院や死亡で契約終了となった時は、フォローに繋がらないことが多い。他施設へ入所で契約終了時は、施設へ訪問する機会に面会している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者に希望や意向を聴きながら把握に努めている。困難な場合は、職員で意見を出し合い、本人本位で検討するように心がけている。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者一人ひとりのこだわりを大切にしたい支援に取り組んでおり、聞き取りをした思いなどは「こだわりシート」に記録し、職員間で情報を共有している。思いを把握することが困難な利用者には家族から情報を聞いて職員間で話し合い、利用者が納得できる支援に努めている。職員は時間に追われ業務優先となってしまう現状だが、「もっと利用者に関わる時間を増やし、気持ちに寄り添いたい」という思いが感じられた。	利用者の思いを「こだわり」という視点で把握する手法はユニークで、利用者や家族は「職員に大切にしてもらえている」と感じることができる。把握した内容は利用者にとって貴重な情報であり、新たな情報の更新をして職員間で話し合い、利用者のことをより把握した寄り添えるサービスが提供できることを期待したい。また、より良いサービスが提供できるよう余裕の持てる人員確保を検討することを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の情報提供を参考にしている。入所後は利用者や家族からの話で日々の生活の中で把握し捉えるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活介護記録や介護計画、カルテ等で現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) より良く暮らして頂くために、家族の意見も聞きながらアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員が利用者や家族等から意見を聞き、毎月のユニット会で話し合い、介護支援専門員を中心として介護計画を作成している。ユニット会では定期的にモニタリングの話し合いもしており、必要に応じて計画の見直しをしている。生活課題の取組み状況は介護記録のほか、実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングに繋げることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録に記入して、申し送り時に共有している。申し送りノートやオンリーワンメモも活用して、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況の変化やニーズに対して、出来る範囲でユニット内で検討し、家族の了解を得ながら、柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生のボランティア、介護相談員の来所、近所の理容、美容の訪問、馴染みの方の歌謡ショーの力を借りて、楽しみながら生活している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体の病院から往診に来てくれている。家族より、かかりつ け医を聞いて確認しながら、母体の病院以外とも、連携でき るようにしている。	
			(外部評価) 系列の医療機関など協力医との連携が取れており、希望して 協力医をかかりつけ医としている利用者が多い。利用者や家 族の希望するかかりつけ医を継続して受診することもでき る。受診は家族の協力をお願いしているが、同行できない場 合は管理者や看護師が同行することも多く、適切な医療が受 けられるよう支援している。常勤ではないが看護師の配置が あり、利用者の健康への不安軽減に繋がると共に、病院や家 族との連携がスムーズに図れるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常の状態に変化があった時は、看護師へ相談して、一人ひ とりに適切な受診や看護が受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 家族と相談して入院中の様子を把握している。入院後は病院 の地域医療連携室やMSWと連携を図り、安心した治療や、早 期に退院できるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは行なっていないホームでの生活が可能な限 り支援している。状態の変化に伴い早い段階から家族や利用 者と話あっている。	
			(外部評価) 事業所では現在看取り介護の実施はしていない。利用開始時 に事業所として対応できる内容を利用者や家族に説明し、利 用者の状態に応じて、その都度利用者や家族から意向を聞 き、希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。系 列法人には医療機関や特別養護老人ホーム等があり、転院な ど受け入れ先の相談にも応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習や勉強会で学ぶ機会はある。実際の場面で実践できるか不安はある。AEDは設置できていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防避難訓練を実施している。地域への参加を呼びかけるが、参加者は少ないため、協力体制は市役所や消防団が中心となっている。年に1回は水害の避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。運営推進会議に合わせて家族等に参加してもらい訓練を実施しており、訓練後には振り返りの機会を設けている。事業所の1階部分には避難経路が多数あり、中庭への出入り口には車いすでも出られるよう新たにスロープを付けている。2階には食糧や飲料水などの備蓄品を用意しているほか、災害発生時には広いベランダを一時避難場所として活用することを検討している。定期的に事業所には地域の消防団の見回りがあるほか、地域の理髪店や美容室に災害発生時の協力を呼びかけている。	事業所の裏は土砂災害の可能性があるため、市役所に防護壁などの対策を依頼し、未然に防ぐ方法を検討している。訓練を重ねたり振り返りを行うことで職員の危機意識は高まってきているが、夜間など緊急時の対応に不安があるため、規定されている訓練のほか自主的な防災へ取り組みを継続させることを期待したい。また、地域住民との協力体制を構築したり、緊急連絡網を活用して確実に伝達できる訓練をする取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声の大きさに注意している。言葉かけや対応は優しく出来ている。 (外部評価) 管理者は事業所の「心がけ」を大切にして、「利用者一人ひとりの人格や状態に合わせた優しさのある声かけをしてほしい」と職員に指導している。利用者に威圧感を与えるような言葉が聞かれる場合には、その都度注意している。指示をされることを嫌う利用者があり、入浴時などの声かけには気を配っている。法人では接遇力アップへの取り組みをしており、管理者はマニュアルの整備を検討している。居室の表札や広報誌に使用する写真など、個人情報希望や同意を得て適切に取り扱いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者の思いや希望を聞いて、把握出来るような支援をしている。自己決定できるように声かけを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切に思い、職員の都合に合わさず、利用者の希望に応じて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者が好きな服を選べるように支援している。おしゃれにも配慮している。選ぶことが困難な利用者へは、職員が選ぶが、その人らしさを意識して選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も同じ物を一緒に食べている。食べたいものを聞くことや、美味しそうに思えるように色どりを工夫している。食器の洗浄や下膳を手伝ってもらっている。 (外部評価) 事業所に1歩入れば食欲を誘うような香りがして温かく感じられ、利用者の暮らしには良い刺激となっている。利用者の希望を取り入れ、ユニット毎に違う献立を立て、中庭で採れた旬の野菜を使用して職員が調理している。食事は利用者が使い慣れた食器を使用し、利用者と職員が同じ食卓を囲み、会話をしながら同じものを食べている。苦手なメニューで食がすすまない利用者には強要せず、さりげなく季節を感じさせる声かけで和やかな雰囲気となっている。また、利用者の好物から始まった「おはぎの日」のほか、月1回利用者の希望する好きなものを楽しめる「ごちそうの日」を設け、ラーメン店や回転寿司などに出かけたり出前を取ることもあり、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量や摂取量をチェックして、その日の体調に応じた食事を考え、介助方法や食器の工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアの声かけを行なって、できるだけ自分でケアできるように促している。できない方は介助するが、不快に思われないように配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握しながら個々に応じたトイレへ案内している。	
			(外部評価) 記録をして排泄パターンを掴み、排泄リズムに応じて声かけやトイレ誘導をしている。夜間にオムツを使用する利用者もいるが、日中にはリハビリパンツを使用しトイレでの排泄ができるよう努めている。利用者の身体機能の維持に努め、できることは利用者自身にしてもらうケアに努めている。ポータブルトイレを活用する利用者もいるが、センナ茶やヨーグルトなどを取り入れトイレで自然な排泄を大切にしている。また、トイレの手すりの取り付けや跳ね上げ式バーなどの設置を検討するなど環境整備にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜やヨーグルトなど提供している。お腹を温めたりマッサージも行なっている。適度な運動も行なっている。センナ茶も飲んでもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日入れるように準備している。個々の体調やタイミングに合わせた声かけを行なっている。入浴の時には羞恥心や負担がないように努めている。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週3回午後から入浴をすることができる。利用者の希望に沿えるよう毎日入浴できる準備をしている。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく、入浴日を変更したり誘い方を工夫したりして柔軟に対応している。状態に応じて2人体制で介助したり、足湯をしながらかけ湯をしたりしているが、身体状況の低下により湯船に浸かることができなくなっていることを利用者や家族に説明している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も臥床を希望する利用者には、居室で横になり休んでもらう時間を作っている。個々のペースに合わせた支援を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬の説明書をファイルして、いつでも確認できるようにしている。誤薬がないように日付、時間、氏名を声を出して確認している。飲み込むまでの確認も行なっている。薬の変更時は申し送りノートへ記載して確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事や花の水やり、一人ひとりの得意とするもの、できそうな事を取り入れた支援ができるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの行動計画に沿って行なっている。家族と外出をされたり、季節に応じてドライブに出かけたり、中庭へ散歩に出かけたりしている。 (外部評価) 利用者の希望で事業所周辺を散歩している。広い中庭にはウッドデッキやベンチが整備され、利用者はいつでも外気浴を楽しむことができる。利用者の生まれた土地や思い出の場所へは一度は出かけられるよう支援しており、利用者を深く知ることにも繋がっている。外出計画を立て今治城や黒瀬ダムなど遠方や、季節に応じて初詣や花見などにも家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。職員が買い物など用事がある場合には利用者数人を誘って気軽に外出したり、ユニット毎に外食に出かけたりすることもあり、外出できる機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は難しいが、ホームに来る移動販売のパン屋など、職員が付き添い、利用者を選んでもらって、支払いはホームで立替している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は、いつでも電話を掛けられるように支援している。手紙の希望はないが、毎年年賀状を書いてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 1日3回の温度チェックを行なっている。テレビの音量や陽射しが眩しい時など、確認しながら対応して居心地よく過ごせるように工夫している。季節を感じられる手作りカレンダーも毎月作成している。冬場は加湿器を使用して湿度も気をつけている。 (外部評価) 事業所の建物は築10年以上経過しているが、職員が丁寧に隅々まで清掃を行い、清潔が保たれ管理している様子を伺うことができる。季節柄、手指の消毒やマスクの着用を外部からの訪問者にはお願いし、感染予防の対策をしている。共用スペースには利用者の通行の妨げになるようなものは置かない配慮をしている。室内の換気を定期的に行ったり、空気清浄器や加湿器を使用したりするなど、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。また、利用者の趣味の俳句や書、毎月の貼り絵などが飾られているが、ユニット毎で違う雰囲気となっている。リビングにある広い畳スペースで利用者は洗濯物を畳んだり、横になり身体を休めたりしている。事業所の各所にはソファやいすが置かれ、気軽に利用者が一息つける工夫を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ロビーへはソファを置き中庭にもベンチを置いて、ユニット以外でもゆっくりくつろげるように環境を整えている。独りになりたい方は居室で過ごしてもらい、仲の良い利用者同士でテーブルを囲むなど、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物や好みの物を持ってきて部屋に置いている。タンスや仏壇も持ち込んでもらっている。写真や手紙、プレゼントを飾られている。 (外部評価) 居室は洗面所、クローゼット、ベッド、エアコンが整備されている。利用者が落ち着いて居心地良く生活することができるよう馴染みや愛着のあるものを持ち込めることを伝え、仏壇や家族写真、テレビ等を配置している。利用者の状態や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。また、トイレなどで職員を呼ぶのに、呼び鈴を鳴らせるよう工夫をしている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーとなっており、個々の部屋の前に写真入りの色紙をかけている。トイレにも目印になる札を付けている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★四季を感じるユニット行事の取り組み:春(お花見)、夏(夏祭り)、秋(敬老会)、冬(クリスマス会) ★地域との交流:近隣の中学生・高校生受け入れ(小松タイム、職場体験)、ボランティア受け入れ(2ヶ月に1回は定期的な慰問)、資格習得のための実習受け入れ、老人会の慰問、青年団の慰問 ★毎月1回、職員勉強会、日常生活報告書の送付と毎月末の金曜日に家族会(茶話会)の実施 ★毎月1回、外食又は食事会を各ユニット単位で実施 ★お誕生日の日に、個別のお誕生日会を開催(ユニットの皆で祝う) ★お誕生日プレゼントは、利用者様の欲しい物を選択して提供 ★ユニット内及び施設内で過ごす事が難しく外に出たい希望の方に、毎日ドライブや散歩の付き添い ★ユニット内でカラオケや体操、紙芝居などレクリエーション活動を支援 ★2ヶ月に1度、広報誌発行

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の系列法人には医療法人や社会福祉法人があり、西条市を中心に医療や福祉などのサービスを通して、誰もが地元で生き活きと生活ができ、笑顔あふれる地域社会づくりを目指し活躍の場を広げている。昨年管理者が交代し、事業所は新たなスタートを切った。職員の介護経験は様々であるが、管理者は「基本介護技術の手順書」の作成など独自にマニュアルを整備しながら職員のスキルやレベルの向上に奮起している。利用者の重度化に伴って、協力医と連携を密にすることや看護師を配置することにより、利用者が安心して暮らし続けられるよう努めている。また、利用者一人ひとりの「こだわり」を大切にした支援に取り組んでおり、温かみを感じる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します										
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が							
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏 名 守 真理 (大森 晋也)

評価完了日 平成 27 年 2 月 2 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関や名札の裏に理念を掲げて、目の付く所に掲示してあ る。小松の里の心がけ「温かく、さりげなく、気くばりと目 くばり」を申し送りの時に復唱している。全員が共有できて いないと感じる事がある。 (外部評価) 法人理念のほか、「あたたかく、さりげなく、気くばり目く ばり」という事業所独自の「心がけ」を開設時に作成し大切 に受け継いでいる。事業所内の各所に理念と「心がけ」を掲 示しているほか、名札の裏に携帯し職員は始業時に唱和し 日々意識付けしている。管理者は「心がけ」を常に意識する ことで、職員が同じ方向を向いて実践に繋げられるよう指導 しており、業務の中で気がついたことはその都度職員に声か けをしている。また、職員は理念や「心がけ」を元にして個 人目標を作成し、年2回個別面接で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 小松タイムで、中学生とのふれあいがあり、地方祭や施設の カメラ夏祭りでは、青年団のボランティアがあり、地域の方 にも案内を出して交流している。散歩に出かけて、近所の方 と挨拶をしている。近隣の散髪屋に来てもらっている。 (外部評価) 事業所は地区と地区の境目に位置し、日常的に近隣とのつき あいが難しく協力者が得られにくい、地域住民と話し合い の機会を作り、つながりを持つ努力を重ねている。職員の縁 から地域の青年団に祭りのバザーの協力が得られるように なった。職場体験から始まった中学生との交流は、草引きや 清掃活動、レクリエーション活動などの定期的な支援にとど まらず、中学校の文化祭へ見学に行くなど相互の交流が広 がっている。また、幼稚園児を招待して事業所で作った野菜 などを利用者と一緒に収穫するなど、事業所としてできる工 夫を継続させながら地域との交流が深まるよう努力してい る。	事業所のある場所や地域性など事業所だけでは解決し にくい問題もあるが、今後も事業所の特徴を活かした 地域貢献など地道な活動を継続させていくことを期待 したい。職員間で話し合いながら、活動を継続するこ とにより地域住民への周知が広まり、事業所と地域を 結ぶ支援協力者を得やすくなり、利用者と地域のつな がり深まったり、災害発生時の相互の協力体制がで きていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で地域の方々へ参加を呼びかけている。また、 2ヶ月に1回は広報誌を作成して、地域の方へ配布している。 認知症の方々への支援などを理解してもらえるように努めて いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 参加している地域の方や、市役所の職員などから状況を報告 して、意見を聞いて改善等の視点や気づきにより、サービス 向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、地域包 括支援センター職員、介護相談員等の参加を得て2か月毎に 開催している。会議では活動報告や地域の情報交換をしてい るほか、避難訓練やAED使用方法など行事を併せて実施 し、家族が参加しやすいよう工夫している。素直な意見が出 され、真摯な姿勢で回答をしている。分かりやすい議事録を 作成し参加していない職員に回覧しており、出された意見が 運営に活かされるよう情報を共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月ホームの入所状況や待機者情報を市役所の担当者へ報告 している。個別に地域密着型サービスについて疑問に感じる 時は、電話で市役所へ問い合わせしている。月に1回は介護相 談員の訪問で利用者との関わりを持って頂いている。運営推 進会議へは、地域包括支援センター職員が参加してくれて意 見交換をしている。	
			(外部評価) 管理者は市担当者と良好な関係にあり、事業所の実情を伝 え、分からないことは積極的に相談し助言をもらっている。 地域包括支援センター職員は運営推進会議への参加があり、 意見交換ができています。また、毎月介護相談員の訪問があ り、利用者との顔馴染みの関係ができており、面談内容は書 面で報告がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の研修や勉強会などで学び知識を身に付けるように 取り組んでいる。施錠や言葉による抑制に関しても注意して いる。玄関へはセンサーによるチャイムで対応している。夜 間は防犯のため施錠している。玄関から出て行かれる利用者 へは、引き止めることなく付き添い散歩している。	
			(外部評価) 事業所には身体拘束をしない方針があり、勉強会や外部研修 に参加し内容を職員に伝達するなど、共通の理解を深めてい る。管理者は声かけや対応には経験による職員の差があると 感じており、気になる場合にはその都度利用者を尊重した対 応を正しく理解できるよう話し合いの場を設けて指導してい る。日中玄関は施錠せず、センサーを活用して職員は見守り で対応している。ユニットの扉には鈴を使用しているが、利 用者はユニット間や中庭へ自由に行き来することができる。 また、帰宅願望のある利用者と一緒にドライブに出かけ、気 分転換を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会で高齢者虐待防止法等について考え、虐待が見過ごされる事がないように注意している。言葉使いにも気をつけて、虐待など疑わしい事は早期に発見して管理者や職員で話し合いを行い速やかに対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加して知識を学んでいる。現在は対象となる利用者はいない。必要に応じて利用できるように、行政窓口へ相談することができるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は管理者が行い、十分な説明を行なっている。改定等がある時は、文章で報告したり、重要事項説明書を変更したり、理解納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関入ってすぐの所に意見箱を設置している。月に1回の家族会や面会時に意見を聞いて、運営に反映させている。ケアプラン更新時には、来ることが出来ない家族へ電話で意見や要望を聞いている。利用者や家族の意見を管理者へ伝えて運営に反映させている。	
			(外部評価) 家族とこまめに連絡を取り、日頃の利用者の様子を伝え、意見を聞いている。定期的に広報誌も発行し、写真を入れ利用者の生活ぶりを分かりやすいよう伝えている。家族は運営推進会議のほか、家族会として茶話会を毎月開催しており、少しずつではあるが参加家族が増えてきており、直接意見や要望が聞ける機会にも繋がっている。家族から出された要望は職員間で話し合い、原因を追究して繰り返さないよう対策を早期に検討し運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回は職員と面接して意見や提案を聞く機会を設けている。ユニット単位では、ユニット会へ参加して話に参加している。職員の働きやすい環境や利用者のサービス向上に繋がることは、毎月法人内の管理職会議で提案している。 (外部評価) 職員は毎年個人目標を作成している。年2回管理者は職員と個人面談をしており、目標達成を確認するほか意見を聞き、お互いに思いを共有している。法人では各種研修の実施や資格取得への支援をしているほか、法人内異動の希望を取り入れたり、育児休暇を取りやすいよう支援するなど、職員が長く愛着を持って働きやすい環境の整備に努めている。職員の人事異動が重なり事業所は不安定な時期もあったが、管理者は職員が精神的に落ち着いて働けるよう様子を観察し、必要に応じて声をかけて話し合いをしている。管理者は介護をより深く知ってもらいたいと独自の「基本介護技術の手順書」を作成し、経験の浅い職員への人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に2回は、個人個人が取り組む目標を設定して、向上心を持って取り組んでいる。資格習得に向けた取り組みもあり、合格した時には手当が支給される。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内で管理職、リーダー対象の研修があり、接遇研修や若手職員研修がある。ホーム内では、キャリア段位制度を利用して、基本介護のマニュアルを作成し、ユニット単位でOJTの取り組みを開始している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者やケアマネ資格者は、西条市のケアマネ連絡会へ参加して交流できている。同じ法人内のグループホームとの交流や、近隣のサ高住とのネットワーク作りを行なっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) インテークでは、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容をユニット内職員へ提示している。入所して1ヶ月程度は、暫定プランを作成して、安心を確保する関係づくりを行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) インテークでは、管理者とユニットリーダーが、面接して聞き取った内容をユニット内職員へ提示している。入所して1ヶ月程度は、暫定プランを作成して、安心を確保する関係づくりを行なっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の入所時サマリーや情報提供を参考に、利用者と家族の意向を聞きながら、支援内容を段階的に支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の暮らしを共に考えて、出来る事は一緒に行い、役割が持てるように支援している。充実した家庭的な生活が送れるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と同じ気持で利用者を支えていけるように、日常生活の様子を伝えて、今どんな事を行い楽しんでいるか、どんなことを困っているか情報の共有を行なっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会に来てもらえるようにしている。外出や外泊も希望時に行えている。利用者が大切にしてきたものや、馴染みの生活が続けられるよう努めている。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から生活歴などを聞き、聞き取りシートにまとめ職員間で共有している。利用者が大切にしてきたことを大切に考え、外出行事の際には利用者の生家近くなど思い出深い場所に行けるよう支援している。3ユニットあるが利用者同士の交流が日常的に行われており、新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者とテーブルを囲めるように配慮している。職員が仲介役となり関わりの支援をしている。他のユニットへも自由に行き来できるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院や死亡で契約終了となった時は、フォローに繋がらないことが多い。他施設へ入所で契約終了時は、施設へ訪問する機会に面会している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりとゆっくり関わる時間を作り、思いや意向を汲み取れるよう努力している。困難な場合は、家族とも相談しながら、利用者本位で考えている。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者一人ひとりのこだわりを大切にしたい支援に取り組んでおり、聞き取りをした思いなどは「こだわりシート」に記録し、職員間で情報を共有している。思いを把握することが困難な利用者には家族から情報を聞いて職員間で話し合い、利用者が納得できる支援に努めている。職員は時間に追われ業務優先となってしまう現状だが、「もっと利用者に関わる時間を増やし、気持ちに寄り添いたい」という思いが感じられた。	利用者の思いを「こだわり」という視点で把握する手法はユニークで、利用者や家族は「職員に大切にしてもらえている」と感じることができる。把握した内容は利用者にとって貴重な情報であり、新たな情報の更新をして職員間で話し合い、利用者のことをより把握した寄り添えるサービスが提供できることを期待したい。また、より良いサービスが提供できるよう余裕の持てる人員確保を検討することを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者や家族から聞き取り、馴染みの暮らし方を職員全員で把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテや申し送りノート、オンリーワンメモなど活用して把握している。職員同士で情報交換を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回のユニット会や家族会で意見交換を行い、プランの見直しを行なっている。参加できる家族は限られているので、参加できない家族へは、電話で確認して意向を伝えている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員が利用者や家族等から意見を聞き、毎月のユニット会で話し合い、介護支援専門員を中心として介護計画を作成している。ユニット会では定期的にモニタリングの話し合いもしており、必要に応じて計画の見直しをしている。生活課題の取組み状況は介護記録のほか、実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングに繋げることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録を行い、特に重要な事は送りノートやオンラインワンメモに記載している。見落としがないように努めている。利用者の様子や出来る事を見極めて、見直しを行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々の生活場面で、状況が変わることがあり、出来る範囲で柔軟な対応を取るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 顔なじみのボランティアの方が2ヶ月に1回訪問してくれる。介護相談員が毎月1回訪問してくれる。近所の理容師や美容師が訪問してくれる。青年団が行事の時に手伝ってくれる。中学生が定期的に慰問してくれる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者と家族より希望を優先して、かかりつけ医と連携を取り、適切に受診や住診が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 系列の医療機関など協力医との連携が取れており、希望して 協力医をかかりつけ医としている利用者が多い。利用者や家 族の希望するかかりつけ医を継続して受診することもでき る。受診は家族の協力をお願いしているが、同行できない場 合は管理者や看護師が同行することも多く、適切な医療が受 けられるよう支援している。常勤ではないが看護師の配置が あり、利用者の健康への不安軽減に繋がると共に、病院や家 族との連携がスムーズに図れるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調など変化があれば看護師へ報告して、必要に応じて受診 を行なっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院後で、病院の医療相談員と連携を図り、出来るだけ早期 に退院できるように情報交換を行なっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは実施できていない。重度化した段階では、 病院へ入院する事が多い。	
			(外部評価) 事業所では現在看取り介護の実施はしていない。利用開始時 に事業所として対応できる内容を利用者や家族に説明し、利 用者の状態に応じて、その都度利用者や家族から意向を聞 き、希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。系 列法人には医療機関や特別養護老人ホーム等があり、転院な ど受け入れ先の相談にも応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回は救急隊員が来て、心肺蘇生やAED使用など、急変時の対応を学んでいる。しかし、いざという時に実践できるか不安がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成して、年に2回は避難訓練を行なっている。また、年に1回は消防署職員立ち会いで火災避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。運営推進会議に合わせて家族等に参加してもらい訓練を実施しており、訓練後には振り返りの機会を設けている。事業所の1階部分には避難経路が多数あり、中庭への出入り口には車いすでも出られるよう新たにスロープを付けている。2階には食糧や飲料水などの備蓄品を用意しているほか、災害発生時には広いベランダを一時避難場所として活用することを検討している。定期的に事業所には地域の消防団の見回りがあるほか、地域の理髪店や美容室に災害発生時の協力を呼びかけている。	事業所の裏は土砂災害の可能性があるため、市役所に防護壁などの対策を依頼し、未然に防ぐ方法を検討している。訓練を重ねたり振り返りを行うことで職員の危機意識は高まってきているが、夜間など緊急時の対応に不安があるため、規定されている訓練のほか自主的な防災へ取り組みを継続させることを期待したい。また、地域住民との協力体制を構築したり、緊急連絡網を活用して確実に伝達できる訓練をする取り組みを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけを特に注意して、その人に合わせ、尊重できるような気をつけている。 (外部評価) 管理者は事業所の「心がけ」を大切にして、「利用者一人ひとりの人格や状態に合わせた優しさのある声かけをしてほしい」と職員に指導している。利用者に威圧感を与えるような言葉が聞かれる場合には、その都度注意している。指示をされることを嫌う利用者があり、入浴時などの声かけには気を配っている。法人では接遇力アップへの取り組みをしており、管理者はマニュアルの整備を検討している。居室の表札や広報誌に使用する写真など、個人情報希望や同意を得て適切に取り扱いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 好きな飲み物を聞いたり、着替えなどは本人の希望を聞いたり、表情の変化や態度を見ながら、自己決定してもらえるように働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、過ごし方を聞いて、その人らしい支援を心がけているが、外に出てしまう利用者へ付き添いをするのが優先となってしまう。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時は整容や衣服の好みを聞きながら、身だしなみには配慮している。入浴時、自分で洋服の準備をしてもらったり、できない方でも一緒に好みの服を選ぶなど支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 話が合う人と隣同士になって頂いたり、食事の準備で、できる方には一緒に行なってもらっている。また、一緒に同じ食材で話をしながら、食事を楽しんで頂いてもらっている。 (外部評価) 事業所に1歩入れば食欲を誘うような香りがして温かく感じられ、利用者の暮らしには良い刺激となっている。利用者の希望を取り入れ、ユニット毎に違う献立を立て、中庭で採れた旬の野菜を使用して職員が調理している。食事は利用者が使い慣れた食器を使用し、利用者と職員が同じ食卓を囲み、会話をしながら同じものを食べている。苦手なメニューで食がすすまない利用者には強要せず、さりげなく季節を感じさせる声かけで和やかな雰囲気となっている。また、利用者の好物から始まった「おはぎの日」のほか、月1回利用者の希望する好きなものを楽しめる「ごちそうの日」を設け、ラーメン店や回転寿司などに出かけたり出前を取ることもあり、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量のチェック表へ記入して確認している。間食に制限がある方もいるので、個々に応じた支援をしている。好き嫌いの把握にも努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きを行なってもらうように声かけして、自分では難しい方には、付き添い介助をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄状態を記録に残し、排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた介助を行う事で自立に向けた支援を行なっている。出来るだけトイレで排泄できるように支援している。 (外部評価) 記録をして排泄パターンを掴み、排泄リズムに応じて声かけやトイレ誘導をしている。夜間にオムツを使用する利用者もいるが、日中にはリハビリパンツを使用しトイレでの排泄ができるよう努めている。利用者の身体機能の維持に努め、できることは利用者自身にしてもらうケアに努めている。ポータブルトイレを活用する利用者もいるが、センナ茶やヨーグルトなどを取り入れトイレで自然な排泄を大切にしている。また、トイレの手すりの取り付けや跳ね上げ式バーなどの設置を検討するなど環境整備にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂取できるように提供している。センナ茶や運動、マッサージなど、一人ひとりに応じて便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴が好きな方や嫌いな方もいるので、嫌な時は無理強いないで時間を変えて入りたい気持ちに合わせて入浴してもらっている。 (外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週3回午後から入浴をすることができる。利用者の希望に沿えるよう毎日入浴できる準備をしている。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく、入浴日を変更したり誘い方を工夫したりして柔軟に対応している。状態に応じて2人体制で介助したり、足湯をしながらかけ湯をしたりしているが、身体状況の低下により湯船に浸かることができなくなっていることを利用者や家族に説明している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムや、その日の状態に合わせて、ゆっくり休める時間ができるよう支援している。眠気が強い方や車椅子を使用している方は、部屋で横になり休む時間を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は、いつでも確認できるようにファイルしている。臨時に出た薬や変更時には、申し送りノートやカルテで把握して確認している。看護師へ内容について聞いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来る事や興味があることに合わせて、料理の下ごしらえや洗濯干しなど家事業務を手伝ってもらっている。はり絵や塗り絵も行なっている。会話で昔の事を聞いて、楽しみや趣味など考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や中庭に出ること、ドライブやお参りなど、個別に対応している。家族より外出の希望があれば、外出する支度や薬の準備など、出先で困らないように準備している。 (外部評価) 利用者の希望で事業所周辺を散歩している。広い中庭にはウッドデッキやベンチが整備され、利用者はいつでも外気浴を楽しむことができる。利用者の生まれた土地や思い出の場所へは一度は出かけられるよう支援しており、利用者を深く知ることにも繋がっている。外出計画を立て今治城や黒瀬ダムなど遠方や、季節に応じて初詣や花見などにも家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。職員が買い物など用事がある場合には利用者数人を誘って気軽に外出したり、ユニット毎に外食に出かけたりすることもあり、外出できる機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことが出来る方は、自己管理してもらい、買い物に付き添い、支払いは見守りしている。自己管理できない利用者は、施設で立替をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望する利用者へは、いつでも電話できるように家族へ理解してもらっている。事務所の電話を利用してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が感じられるように飾ったり、部屋に分かりやすく名前や飾りをつけたりしている。1日3回の室温チェックを行い、冬場は加湿器を使用している。手作りのカレンダーも毎月作っている。 (外部評価) 事業所の建物は築10年以上経過しているが、職員が丁寧に隅々まで清掃を行い、清潔が保たれ管理している様子を伺うことができる。季節柄、手指の消毒やマスクの着用を外部からの訪問者にはお願いし、感染予防の対策をしている。共用スペースには利用者の通行の妨げになるようなものは置かない配慮をしている。室内の換気を定期的に行ったり、空気清浄器や加湿器を使用したりするなど、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。また、利用者の趣味の俳句や書、毎月の貼り絵などが飾られているが、ユニット毎で違う雰囲気となっている。リビングにある広い畳スペースで利用者は洗濯物を畳んだり、横になり身体を休めたりしている。事業所の各所にはソファやいすが置かれ、気軽に利用者が一息つける工夫を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチなど、中庭やユニット内、玄関フロアーに設置している。いつでも部屋に戻れたり、ロビーや中庭に出て独りになれる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を部屋に飾っている。使い慣れた馴染みの家具を置くなどして、居心地よく過ごせるように工夫している。 (外部評価) 居室は洗面所、クローゼット、ベッド、エアコンが整備されている。利用者が落ち着いて居心地良く生活することができるよう馴染みや愛着のあるものを持ち込めることを伝え、仏壇や家族写真、テレビ等を配置している。利用者の状態や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。また、トイレなどで職員を呼ぶのに、呼び鈴を鳴らせるよう工夫をしている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの場所が分かる工夫や、手すりの設置、居室内の物の位置に注意するなど、できる事や、わかることを活かして安全に行えるように工夫している。	